

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度の始めに1年の目標を立てている。会議の中で地域を意識した話し合いをしている。ケアで改善した方が良い時は、上司に報告相談し会議等で話し合いしている	「生きがいへの支援」を根幹とした法人の理念があり、より具体化させたホーム独自の運営理念もある。理念は家族や来訪者にも分かり易い玄関や共有のスペースに掲示されている。理念を実践しているかどうか振り返りの場を持ち、年度初めには新たな年間目標とチーム目標を立て全職員が取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板・GH新聞・広報、その他お知らせ配布を入居者と一緒に配り地域の方と関わりをもっている。	グループホーム新聞や広報サルビア(あっとホームだより)等を利用者と一緒に地域住民に配布しながら、地域との関わりを持ち続けている。地域で催される行事には利用者と共に参加し交流を深めている。地域住民の誰でもが、「気軽に」「ちょっと遊びに」立ち寄れるようなおつき合いを日頃から心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西部地域包括支援センターの職員と一緒に地域に向けての勉強会を開催している。前頭側頭型の認知症の方の事例発表をしている。他事業所にも出向き認知症の勉強会をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見はGH会議で話し合いを行いケア向上に努めている。現場職員の人数関係で、管理者以外の職員出席が難しい。	参加メンバーは利用者代表、家族代表、ボランティア代表、町会長、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員等で構成され、イベント(避難訓練・カレー会・スライドショー)を交えて、定期的に開催し、ホームの活動状況や利用者の様子等を報告し、意見交換を行っている。出された意見はサービス向上に活かしている。6月の運営推進会議には消防署員や消防団の参加があり避難訓練も地域住民の方を交え同日に実施された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が行っています。地域包括支援センターの活動『いきいき脳活用塾』にも参加したり、一緒に勉強会をしたりして、気軽に担当者との連携がとれている。	介護認定の更新申請や区分変更申請は依頼があれば代行も行っている。家族より一任され、認定調査の立会いを行うこともあり、ホームでの様子を伝えている。市や地域包括支援センターと一緒に勉強会を主催し、地域との連携がとれるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サルビア全体の研修に、勤務者以外の職員は出席し、周知し取り組んでいる。昼間は原則施錠しないで、ホームだけでなくサルビア全体で連絡をとりながら見守りしている。	法人の全体研修を受講し、身体拘束がもたらす弊害や具体的な行為を正しく理解し身体拘束の無いケアを実践している。離脱傾向のある利用者についても日常の様子に気を配りさりげなく声を掛け、一緒に外出するなど、複合施設全体の理解を求め連絡を取り合いながら安全面にも配慮し自由な暮らしを支えている。	

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修に出ている程度です。外部研修に職員が代表で出て、他職員に伝えることが大切だと感じています。ホーム内では定期的に事故対策及び虐待防止の為の会議を開催し職員全員で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GHJ会議などで、管理者が内容や必要性について話しをする。家族や地域包括支援センターと話し合いながら必要のある方は、活用出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い家族に理解していただいている。また、再度改正により、料金等変更になった場合はすべて文章で説明し、家族に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も出席していただき、意見や要望を聞いている。家族会も年1回開催し家族同士の話が出来る場所の提供をしている。また、松本市介護相談員の方が毎月来所し、入居者の要望等を聞いている。	運営推進会議の後に家族会が行われ、何でも言っただけのような雰囲気作り心がけている。意見や要望は会議で話し合い反映させている。「グループホーム新聞」が年に2～3回発行されており、家族にも配布しホームの様子をお知らせしている。毎月、2名の介護相談員の来訪があり、利用者が外部に向けて意見を発信できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議で職員の要望を聴く機会を設けている。また、日々職員の思いを聞き出すよう心がけている。	人事考課制度があり、職員は自己の目標を立て、面談を行いながら進捗状況を確認し業務に当たっている。グループホーム会議が月1回実施され、意見や提案を出し話し合い、運営に反映させている。身体拘束・事故対策・ケア研修が月1回のペースで交互に行われ、職員は法人の内部研修(感染症・虐待)も受講し、知識と技術を身につけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を用い個別に話し合う機会をもち、職員の意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、法人全体の研修参加を促し、ケア向上に努めている。		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本地域GH連絡会での交流があり、情報を共有している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時本人の情報を職員が、認識共有化することも大切だが、本人の様子表情を注視し、話しを聴くことが大切と感じ、どの入居者に対しても声かけられやすい人・言いたいことを言いあえる関係をつくれる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者に頼る傾向があり、職員間でバラつきあるが、家族が来た時は最近の様子(外出のことや日常のちょっとした変化)を伝え、挨拶だけで終わらない関係作り心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に差がある。出来る事・出来ないことの見極めをして出来る部分を伸ばす・活かす関わり心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り・洗濯干し・洗濯たたみ等、日常生活で出来る事は共に行い、畑の作業などでわからないことは、入居者に教えて頂いて一緒に作業をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ家族や本人と話し、要望が言える関係作りを心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に差があるが、入所前の馴染みの店に行き、カット・カラーや、買い物に行く。また、家族との繋がりが途切れないよう、(金銭関係・衣類や寝具などの持帰り)管理者が働きかけている。	家族との繋がりが途切れないよう工夫を凝らした働きかけをしている。馴染みの理美容院や買い物に出掛ける方、年末年始やお盆、お彼岸等に家族と外出される方、絵手紙で賀状を作り新年の挨拶をされる方等、これまで大切にしてきた関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立した入居者が無いう、テーブルの配置を変えたり、体操・歌などを通じ一緒に関われる機会を設けている。		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や手紙(お知らせのイベント)を送っている。また、近くの方は絵手紙サークルやボランティアを通じて変わらず交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしで入居者等の関わりを最優先にし、本人の思いを汲み取る努力をしている。ひもときシートを使い職員で意見を出して貰う機会を設けている。	利用者の殆どは自分の思いを表出できる。困難な場合は「ひもときシート」等を活用し把握や推測をすることもあるという。一人ひとりの希望や意向を可能な限り叶えるために多角的に観察し、関係者で共有しながら実践に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在の対応に追われているのが現状。しかしふとした瞬間に本人から言動として出てくるので、記録に残し会議などで職員が共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が「何をしたら良いか分からないから座っている」この時間を減らすよう心がけているが、職員の入れ替え等があり、差がある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	積極的に意見を出す職員と、考えずに決められた事だけやろうとする職員と差を感じる。引き出すケアについては課題が残る。	利用者や家族の希望、意見を踏まえ、「グループホーム会議」や「その他の会議」で話し合い、アセスメントとモニタリングを実施している。グループホーム会議で話し合う他に定期的(4回/年)に「サービス担当者会議」を開催し現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員に差がある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部のサービスはあまり利用できていない(福祉広場)ように思われる。職員で差があるが、上司に連絡・相談を行いサービスの内容変更している。また、その時の状況により、スタッフ同士で話し合い対応している。		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での活動(掃除・イベント)に入居者さんと一緒に参加したり、地域住民の方にもホームにボランティアで(生け花・お蕎麦・絵手紙等)来ていただくなど交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望聞き、家族には必ず承諾を得てから、医療を受けられるよう支援している。	本人や家族の希望する主治医や医療機関で受診できるように支援している。受診時の付き添いは家族にお願いしているが、諸事情で難しい場合は職員が付き添う等、臨機応変に対応している。訪問看護が週1回、歯科医の往診が月2回あり、必要に応じて皮膚科の往診もあり適切な医療が受けれるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用。週一回の定期訪問(バイタルチェック)時相談し、指示を受けている。緊急時はその都度連絡を取り合って適切な受診が受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の早い段階から本人及び家族の意向を把握している。体調レベル低下時都度説明は管理者からしている。これまでのホームの看取り経験をふまえ、主治医・訪問看護と連携をとりながら支援している。	状態に応じて段階的に説明・話し合いの機会を設けている。過去に4名の方が逝去され、関係者で連携を密にとりながらホームでの看取りを行った。本人や家族の意向を踏まえ、納得の行く終末期を迎えるためにじっくりと話し合うことを大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応や連絡網は出来ているので、その手順に沿って対応が出来る。応急手当や初期対応の訓練は研修はしているが、実践出来るか不安は残る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方参加し見守りがとれる体制が出来ている。しかし火災の避難訓練がほとんどで、地震・水害に関しては、併設の特養も含め、具体的マニュアルが無くどこまでするのか分からない。	消防署の立会いの下、夜間・昼想定訓練(通報・消火・避難・誘導)を年に2回実施している。役割分担を徹底し、避難後の見守りを地域住民の方をお願いしている。参加者(消防団・地域住民・日赤奉仕団・組合長等)から「的確な指示が欲しい」と具体的な意見が上がったという。スプリンクラー、消火器、自動火災報知機なども設置され、食料品や介護用品の備蓄もあり、いざという時に備えている。今後、自然災害を想定した訓練を実施しようという動きもある。	

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	つい友達言葉になってしまうことがある職員がいる。常に人生の先輩であるという尊敬の気持ちを失わず接するよう努めている職員もいる。過度な尊敬語ではなく、丁寧語・敬語での言葉使いに心がけている。	運営規定、契約書にプライバシーの尊重及び秘密保持に関する一文が明記され、職員は研修を受け実践している。入浴や排泄時の異性介助については本人に説明をしたり、表情や態度で見極め交代する等、随時対応している。常に人生の先輩として敬意を払い、言葉使いや語調を意識し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服の選択・食事メニューの決定・食事作りの過程においても、入居者の意向を引き出し尊重するようにしている。多くの選択が困難な入居者に対しては、2者選択にしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望を聞いたり、することがない時間を極力少なくするよう。本人の興味のあるアクティビティを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着ていくものの選択を入居者と一緒に行く。化粧品など(すでに自ら行っている人もいるが、)おしゃれを一緒に楽しみながら外出するようにしている。また、化粧品の補充や、パフの洗浄などをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ある食材で何が出来るか、何味にするか相談し、皮むき・野菜きり・味付け・盛り付け等をしていただいている。食料品の買い物には、ほぼ毎日行っている。入居者の食べたい物も、購入している。	ホームの菜園で採れた野菜や家族・近所より頂いた野菜を献立に取り入れ利用者のできることを活かし、一緒に調理などを行っている。天気や季節に応じて食べたい物を献立に上げ食材を買いに出掛けたり、天気の良い日には戸外にテーブルを出すなど、楽しく食事ができるように工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶が嫌いな人はポカリ・コーヒー・野菜ジュース・りんごジュースにし、飲む込みづらい人は、刻み食や、トロミをつけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行っていない。朝食後や夕食後は必ず行う為の声掛けをし、場合によっては、一部介入する。(出来る事・出来ないことの見極めをしている。)		

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握をし、声かけ誘導している。排泄コントロールが上手く出来ない入居者がいて、課題も残る。	一人ひとりの排泄パターンを把握し自立に向けた支援を行っており、声掛けや誘導を日常的に行いトイレでの排泄ができるようにしている。8名の方は布の下着を身につけ、時間帯や状態に応じてパット等の使い分けしている。日常の食生活を通して野菜、果物、乳製品を多く摂り入れ、自然排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムージーや牛乳・乳製品の摂取を日常的に行っている。無理の無い範囲で散歩などの運動も取り入れている。困難な場合は腹部マッサージなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が難しくなっている入居者に対しては、入浴日を一応決めているが、毎日入浴をしたい方については、毎日入浴出来るよう環境を整えている。	毎日入浴をしている方と回数の多い方がそれぞれ若干名おり、また、夕食後の希望に応じるなど、一人ひとりの要望や習慣、タイミングに合わせている。状態によっては職員二人で対応したり、一般浴槽で難しい方については併設特別養護老人ホームのリフト浴を使用し安全に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不調が見られる時は、休むよう声かけをしたり、夜間も熟睡している時は、トイレの声かけも無理強いせず、休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	なるべく薬の把握をし、誰でも何時でも薬の目的や副作用は把握出来るよう、薬手帳ファイルを作っているが、職員間で把握に差が感じられる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いや喜びのある日々となるよう心がけているが、日々の暮らしの中では限られた人になってしまうことが課題		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	同じ人ばかりにならないよう心がけている。また、本人より外出の希望があれば外出出来るよう暮らしを組み立てている。前頭側頭型の方の外出欲求多い為、偏ってしまう時もある。	ホーム全体で年2回外出をし気分転換している。近所の店に買い物に出掛けたり、天気の良い日には散歩に出掛け、また、行きつけの理美容院での整髪、敷地内の畑の草取りや収穫など、日頃の暮らしの中で気分転換できるよう支援している。	

グループホームサルビア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分持ちのお金を持ち、使っている方は数名おり、管理・運営の支援をしている。また、出来る方は買い物の支払い帳簿つけの際計算を共にしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の同意得て、利用者が電話したい時に意にそうよう体制を整えている。年賀状や絵手紙を家族に送る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾っている。また、車椅子の方が行きたい場所に自走して行けるよう空間の確保・フロア内・外で落ち着いた居場所となるような場所の確保をしている。入居者の要望や日々の様子を見て、テーブルの場所や食座の場所を変えている。	ブラウンとホワイトを基調とした共用空間にはテーブルや炬燵、テレビ観賞のできるソファ等があり、来訪者の視線が気にならないように配慮するとともに利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。ホール中心にある対面式キッチンを利用者と職員が共同で作業をしやすいように左右からの出入りが自由で、車椅子の方の高さにシンクがあり自立に向けた環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外にくつろげる空間を創り出す様努力している。気の合った人が近くに座れる様、配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇持参している方には、季節の花を共に飾ったり、お供え物をする時の見守り等をしている。絵手紙や習字等本人の作品を飾っている。本人の写真なども居室に飾っている。	床暖、エアコン、洗面台が常設され、床材(畳・フローリング)は居室毎に違っている。寝具や筆筒、大切な家族の位牌の入った仏壇などが持ち込まれ、家族と撮った写真、自身の作った絵手紙や書、生け花なども飾られ、その人らしく暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方でも食器洗いが出来るよう、環境を整えている。物の配置や展示物は車椅子の入居者でも見やすい場所に貼ってある。夜起きても足元が暗く無いよう、小さい灯りが付いていたり、食器や衣類が洗えるようそれぞれの場所がきれいになっている。		